



「1000年前の須恵器・小型三角窯再現」。この言葉が頭に浮かんだ時、これは実現しないといけない、やってみたい、という好奇心が、体の中から湧き出てきました。そこで、亀岡市教育委員会や生涯学習かめおか財団の方々と、このプロジェクトがどうしたら実現するか、亀岡の文化遺産でもある篠窯を市民の方々にどう知ってもらおうか、どのような形で参加してもらおうかを話し合ってきました。

そして、たくさんの専門家、陶芸家、地元の方々の協力を得て、1年目は何とか窯を再現し、窯焚きをすることが出来ました。しかし、窯作り、須恵器製作、窯の焚き方、どれも成功というにはほど遠く、新たな疑問や問題を再確認することになりました。初めからわかっていたことではありますが、形だけの成功はありません。たぶん10年間続けて、少し何かができるような、そんな世界だと思います。

1000年前の須恵器職人が抱いていた感覚、大事にしていたこと、それらを想像しながら、今の自分たちと繋げていくのだと思います。このプロジェクトをもっと多くの方に知ってもらい、興味をもっていただける活動を、これからも続けていくことができたらと思います。

陶芸家、こどもアトリエでくてく
プロジェクト・リーダー

綿引恒平